



この笑顔に癒されます。

### ■活動を陰で支えるボランティアの存在

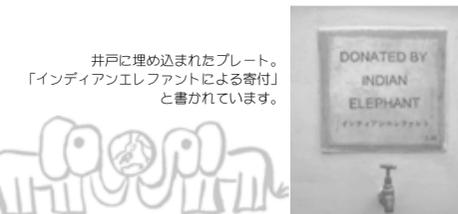
主要メンバーは約10名と団体としての規模は決して大きくない。では、なぜこれだけのイベントを開催してこれたのか？そこには、この団体の活動に共感する人たちが大いに関係する。活動を陰で支えるボランティアスタッフの存在である。こうしたボランティアスタッフは、イベント告知に必要なポスターや看板などで協力する人、重い荷物を運びこむの多いイベント当日にスタッフとして力を貸す人、イベントには参加出来ないが資金面や物品なら協力できると寄付する人と様々。「私たちの活動を理解し、協力してくれるボランティアスタッフの皆さんには本当に感謝しています」と、こうした人たちの想いをメンバー全員が噛みしめ、その想いを無駄にしないようイベント成功に全力を傾けている。協力し合い支え合う市民活動の根幹が根付いているようだ。

### ■夢のひとつが叶った瞬間

以前、アジアの貧困地域で支援活動を行うNPO法人アジアチャイルドサポートの池間哲郎代表理事を沖縄より招いて講演会を開催した。この時、聴講に訪れた人たちが大いに関係する。活動を陰で支えるボランティアスタッフの存在である。こうしたボランティアスタッフは、イベント告知に必要なポスターや看板などで協力する人、重い荷物を運びこむの多いイベント当日にスタッフとして力を貸す人、イベントには参加出来ないが資金面や物品なら協力できると寄付する人と様々。「私たちの活動を理解し、協力してくれるボランティアスタッフの皆さんには本当に感謝しています」と、こうした人たちの想いをメンバー全員が噛みしめ、その想いを無駄にしないようイベント成功に全力を傾けている。協力し合い支え合う市民活動の根幹が根付いているようだ。



井戸は、ミャンマーの首都「ヤンゴン」の西側区に位置する、エーヤクティエーという地区に建設されました。たくさんの人が入り組んでいて、小さな井戸での移動は危険なため雨季になると行くことも困難な場所だそうです。



井戸に埋め込まれたプレート。「インド人エレファントによる寄付」と書かれています。

### ■あなたの力がインエシを変える！

現在の悩みは新規メンバーの確保。この5月に現メンバー内から2名が海外留学を控えている。今後、活動を続ける上で、新規メンバーの募集は必須だ。しかしこれはただ人手が欲しいというだけではない。団体内に新しい風を求めているのだ。「新しいメンバーが加われば、私たちも負けてられない！ っていう気になりますからね。俄然やる気が出ます」と現メンバー熊澤さんは語る。インド人エレファントの活動に未来を感じる方は、この力強さに巻き込まれてみるのも良いかもしれない。

## と、いうこと！ インエレメンバー大募集中です！

インド人エレファント、通称インエレでは新規メンバーを募集しています。外国の生活や文化を知りたい方、国際交流に興味のある方なら年齢、性別などは問いません。もちろん学生さんも大歓迎です！ 元気いっぱいあなたをお待ちしています。

詳しいお問合せはこちらまで。 E-mail ▶ inele2005@hotmail.co.jp TEL ▶ 090-4115-5036 代表：坂口(18時以降)



### おすすめ書籍紹介 書籍の森

#### 今注目のCB書籍、16冊揃いました！

地方財政の厳しい中で、地域を救う方法はこれか!? と今、静かに熱い視線が注がれている「コミュニティ・ビジネス(CB)」。CBは「地域の課題を、地域資源を活かしながらビジネスの手法で解決すること」と言われている。「地域課題の解決」と聞けばNPOの皆さん黙ってられないのではないだろうか？ しかも、活動資金難が原因で良い活動の維持・拡大ができないというNPOなら、視野に入りたい新しいビジネスモデルだ。

注目される理由は様々だ。全国のCB先行事例を紐解けば、意外にも学生、主婦、高齢者や退職者などが活躍している姿をご覧いただけるだろう。また、利益追求目的の一般企業では参入しにくい、地域の人にとっては必要不可欠なサービスと事業展開のチャンスがまだまだ眠っているのが見えてくるのでは？

当センターでは、昨年CBセミナーを県内で先行実施(※県主催、センター共催)。この可能性に着目し、CB入門書、CB先行事例集、CB起業マニュアルなど16冊を揃え、書籍の森に「CBコーナー」を設けた。入門書「入門」コミュニティビジネスの成功法則」では、ボランティアとCBの違いや新しい働き方への提案があり、事例集「好きなまちで仕事を創る」では「力が強くなれば仕事は創れないのか？」と読者に問いかけている。「食べるために働く」ではなく「人生を豊かにするために働く」CBとは何か？ さらに知りたい人は書籍の森へ足を運んでみてほしい。



### 作るみんなの書籍の森

閲覧図書三重県一を私たちが一緒に目指しませんか？

ご協力ありがとうございます。おかげさまで500冊突破。

松阪市市民活動センターは新たに生まれ市民活動団体に活用していただくため書籍リサイクル運動「書籍の森」を実施中です。あなたの本棚に眠る使用済みのNPO書籍を次の世代に役立ててください。

【募集書籍】NPO、ボランティア、まちづくり、NGO、CSR資料

### センターからのお知らせ

■ゴールデンウィーク休館のお知らせ。下記の日程で休館となります。2007年4月30日(月) 5月3日(木)～5日(土)

### 読者のみなさまへ 使用済みインクカートリッジを回収しています。

プリンターの使用済みインクカートリッジが寄付に変わり、子どもの心を受け止める専用電話「チャイルドライン24」の電話代になります。回収するインクカートリッジ A4～A3ノビ版インクプリンター用 純正使用済みインクカートリッジ全般

チャイルドライン24の詳しい内容はホームページをご覧ください。▶ http://childline24.net/ ※専用回収ボックスは松阪市市民活動センター内、正面入り口から入ってすぐのメールボックスの右上に設置されています。

### 次回発行は6月中旬です。

募集・イベント・事業案内など、共有したい情報をお持ちの方は、「アロマ掲載希望」の件名で「タイトル・趣旨・内容・日時・場所・問合せ先」などをご記入の上、松阪市市民活動センターまでE-mail カFAXにて送付してください。担当/澤・北西

Table with 2 columns: 利用 (Usage) and 料金 (Fees). Rows include meeting room rates (e.g., 大会議室 1000円), equipment rental (e.g., 印刷機 紙持込), and application fees.

Information section for AROMA including QR code, website URL (http://www.city.matsusaka.mie.jp/kyodo/), and contact details for the Matsusaka City Citizen Activity Center.

AROMA No.10 拡大版 (Expanded Edition) header with contact information for the Matsusaka City Citizen Activity Center, including phone numbers and email.

いつも松阪市市民活動センター発行のAROMAをご愛読いただきありがとうございます。本紙は今回で節目となる第10号を迎えることができました。振り返れば、本紙をきっかけとして様々な交流が生み出されてきました。団体同士のコラボレーションや取材から発展したイベント事業、遊び心ある公募企画など、まさに「市民が創る市民活動の情報紙」であったように思います。このコンセプトは今後も変わることはありません。そして記念すべき第10号は、更なる飛躍に向けた拡大版でお送りいたします。本紙はいつまでも皆様と共に歩み、市民活動を支える情報紙でありたいと思います。

Advertisement for the 'New Friends Birth' (新しい仲間誕生) campaign. It features cartoon characters and asks for names for a robot. Text includes: 'ボクたちのなまえを募集するよ!', 'そして、またAROMAから新しく生まれます。', and details about the name collection process.

Advertisement for 'Our Thoughts' (私たちの想い). It features a silhouette of a person and text about the importance of communication and community. Text includes: '私たちの想い', '—とある同窓会にて、久しぶりに顔を会わす級友たち。', and '両手に寄付が集まった文具をいっしょにかかえ、自分たちの荷物はリュック1つ。'.

Advertisement for 'Little Group' (ちょっと気になる団体). It features a group photo and text about the organization's activities and goals. Text includes: '会議室のドアを開くと賑やかな声がもれてきた。', 'この団体の活動に共感する人たちが大いに関係する。', and '代表の坂口八千代さん(写真中央)'.

国際交流インド人エレファント. 設立のきっかけは何も出来なかったもどかしさ. この団体を立ち上げた代表の坂口八千代さんは海外留学経験があり、かねてより外国に興味があった。しかし、団体設立の一番のきっかけとなったのは、まだ記憶に新しいスマトラ島沖地震だったという。その日、坂口さんは友人のスリランカの人たちと食事をしてた。友人たちと過ごす和やかな時間。その時友人の携帯電話に地震に関する第一報が届き、その場は一変する。「その時、まだ日本には現地の情報は入って来てなかったんです。目の前で泣き出す友人や、家が流されてしまったと慌てふためく友人を目の当たりにしながら何も出来なかったんです」と当時の様子を語る。その時のもどかしさから自分にも何かできないだろうかと考え、同じく国際交流に興味のある中学、高校の同級生に声をかけ2005年、インド人エレファントを設立するに至った。

■イベントは国際交流の場. この団体は当センターに登録された中でも比較的年齢層が若い。しかし活動内容は設立3年目とは思えない程充実している。イベントなどを通じ、不用になった筆記用具等の寄付を募り、主にアジアの貧困地域の子供達にメンバー自らが届けている。必要な物を、必要としている所に届けたいという気持ちから手渡しにこだわっている。今までにベトナム、中国、タイ、フィリピン、インドなどを訪れ、その国の生活や文化を自分たちの目で見、肌で感じ、帰国後にその国にまつわるイベントを開催し報告している。4月15日(日)に開催された「ナマステインド ナマステネパール」で自主イベントも9回を数える。他にも夏には国を特定せず開催されるパーベキューなどを実施し国際交流の場を提供している。イベントは、多くの人に足を運んでもらえるようほとんどが入場無料だ。パーベキューに関しては材料費のこともあり無料とはいかないが参加しやすい金額設定となっている。文具などの寄付活動も行っているが、主軸はあくまで国際交流。「やっぱり、まずは自分たちが楽しむことが大事」と笑顔を見せるメンバー。活動を続ける上で軸がぶれないということは大切なことである。



▲この日は訪問先の南インドで現地テレビ局と新聞社の取材を受けました。女性メンバーは浴衣を着て日本の文化をアピール。皆、初めて見る浴衣に大喜びだったそうです。

両手に寄付が集まった文具をいっしょにかかえ、自分たちの荷物はリュック1つ。メンバーの一人が空港で止められてしまうというハプニングも... それもこの笑顔を見れば吹き飛びますね。 ▶現地の人とのコミュニケーションも手渡しの良さ。

